

国語

## (1) 国語

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 言葉による見方・考え方を働かせ、国語で正確に理解し適切に表現する学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養ったり、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合うなど、言語能力の育成を図るための工夫 (3) 情報活用能力の育成に向け、情報の扱い方に関する学習の充実を図るための工夫 (4) 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫 (5) 調べたことを報告したり、行事の案内や報告の文章を書いたりするなどの体験活動を通して、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫 (6) 生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を促すための工夫 (7) 他の教科や小学校等との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容別配当の分量 (2) 教材・資料等の分量 (3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等
3 その他	語彙指導、読書指導の充実に向けた工夫

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
2 東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>●着眼点(1)について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入ページの「学びの扉」では、日常生活でのつまずき例が漫画で描かれ、言葉の使い方に関する課題を主体的に見つけられるよう工夫されている。 〔例〕1年(P29)</li> <li>・キャラクター同士の対話を通して学びを深められるよう工夫されている。 〔例〕1年(P30)</li> </ul> </li> <li>●着眼点(2)について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教材で身につけたい資質・能力が「言葉の力」として明示されている。 〔例〕1年(P31)</li> <li>・基礎編「学びを支える言葉の力」では、各領域で必要となる基礎的な資質・能力を上げて学習できるよう工夫されている。</li> </ul> </li> <li>●着眼点(3)について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎編で、情報の整理の仕方や情報と情報との関係の捉え方を身近な題材で学べるよう工夫されている。 〔例〕1年(P226～229)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●着眼点(4)について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教材に記述式の「振り返り」が設定されている。 〔例〕1年(P31)</li> <li>・巻頭に「学習の進め方・教科書の使い方」があり、学習の見通しがもてるよう工夫されている。</li> </ul> </li> <li>●着眼点(5)について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>言語活動の題材として、日常生活・社会生活に関わるものが取り上げられている。 〔例〕1年(P148、149)</li> </ul> </li> <li>●着眼点(6)について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>導入ページの「学びの扉」では、漫画によって言葉の学びの意義を伝えるとともに学習意欲を引き出す工夫がされている。</li> </ul> </li> <li>●着眼点(7)について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎編「学びを支える言葉の力」の末尾の「つながる・広がる」には、学んだことが国語科や他教科の学習、生活のどんな場面で生きるのかが示されている。</li> </ul> </li> </ul>
15 三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>●着眼点(1)について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の初めの単元に「グループディスカッション」が設定されていて、その後の学習に生かせるよう工夫されている。</li> <li>・対話を通して自分の考えを深められる項目が取り上げられている。 〔例〕「情報を関係づける」</li> </ul> </li> <li>●着眼点(2)について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教材に「思考の方法」「語彙を豊かに」が設定され、基礎的・基本的な知識及び技能が確実に習得できるよう工夫されている。 〔例〕1年(P28、29)</li> <li>・「読み方を学ぼう」「学習のポイント」「思考の方法」など学習方法の習得のための工夫がある。 〔例〕1年(P40～42)</li> </ul> </li> <li>●着眼点(3)について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>各学年に、情報の扱い方に特化した単元「情報を関係づける」が設定されている。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●着眼点(4)について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭に教科書の使い方が示されていて、学習の見通しがもてるよう工夫されている。</li> <li>・巻末に「『読み方を学ぼう』一覧」があり、学習した読み方を振り返って確かめられるよう工夫されている。</li> </ul> </li> <li>●着眼点(5)について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>言語活動の題材として、日常生活・社会生活に関わるものが取り上げられている。 〔例〕1年(P150～154)</li> </ul> </li> <li>●着眼点(6)について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>協働的な言語活動の場を設け、仲間と達成感を得ることで意欲を高められるよう工夫されている。 〔例〕グループディスカッション</li> </ul> </li> <li>●着眼点(7)について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>学習方法を学ぶことが重視されていて、他教科等の言語活動で活用できるよう工夫されている。</li> </ul> </li> </ul>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
17 教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>●着眼点(1)について <ul style="list-style-type: none"> <li>・各領域で、相互に課題を交換しながら学習が進められるよう交流活動が設定されている。〔例〕1年(P48)</li> <li>・自ら課題を発見し、問いを立て、考え表現することができる話題や題材が取り上げられている。〔例〕1年(P41~43)</li> </ul> </li> <li>●着眼点(2)について <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材で学ぶべき基礎的・基本的な内容が「学びナビ」として取り上げられている。〔例〕1年(P18、19)</li> <li>・「読むこと」では、学習指導要領に示された指導過程を踏まえ「内容を読み深めよう」と「自分の考えを伝え合おう」の2段階の学習ステップが提示されている。〔例〕1年(P97)</li> </ul> </li> <li>●着眼点(3)について <ul style="list-style-type: none"> <li>「学びナビ」で語彙と情報の扱い方を関連づけた「思考」が取り上げられていて、文章などの理解力や、自らの表現力を高めることができるよう工夫されている。〔例〕1年(P41)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●着眼点(4)について <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学びナビ」で、学習の前に当該教材での学習の重点や学習内容の観点を把握できるよう工夫されている。</li> <li>・「ここが大事」「目標」などで重点的に学ぶ事項を示し、学習内容の明確化、焦点化を図ることによって、学習の見通しがもてるよう工夫されている。〔例〕1年(P33)</li> </ul> </li> <li>●着眼点(5)について <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な生活や地域について考える教材が取り上げられている。〔例〕1年(P71~73)</li> </ul> </li> <li>●着眼点(6)について <ul style="list-style-type: none"> <li>中学生が興味を持てるよう、文学的文章では、現在活躍している作家が多く取り上げられている。</li> </ul> </li> <li>●着眼点(7)について <ul style="list-style-type: none"> <li>教材の末尾に「学びを生かそう」の欄が設けられていて、他教科等の学習の言語活動に活用できるよう工夫されている。〔例〕1年(P43)</li> </ul> </li> </ul>
38 光村	<ul style="list-style-type: none"> <li>●着眼点(1)について <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習の窓」では、汎用的な読みのポイントが図解とともに示されていて、深い学びにつながるよう工夫されている。〔例〕1年(P28、29)</li> <li>・3年間を通して「聞き上手になろう」の単元が設定されていて、主体的に聞く力を育て、対話的な学びの基礎を築けるよう工夫されている。〔例〕1年(P116、117)</li> </ul> </li> <li>●着眼点(2)について <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連する既習事項が明示され、領域を超えて学びをつなげられるよう工夫されている。〔例〕1年(P34)</li> <li>・論理的思考を段階的に育むため、各学年の説明的文章が「視野を広げる」「論理の吟味」「価値の創造」の順に配置されている。</li> </ul> </li> <li>●着眼点(3)について <ul style="list-style-type: none"> <li>情報と情報との関係を扱う「思考のレッスン」と情報整理の方法を示した「情報整理のレッスン」が設定されている。〔例〕1年(P32、33)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●着眼点(4)について <ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭に「学習の見通しをもとう」があり、一年間でどのような力を身につけるかを見通せるよう工夫されている。</li> <li>・「何ができるようになったか」を自分の言葉で書く設問の振り返りが設定されている。〔例〕1年(P29)</li> </ul> </li> <li>●着眼点(5)について <ul style="list-style-type: none"> <li>言語活動の題材として、日常生活・社会生活に関わるものが取り上げられている。〔例〕1年(P118~120)</li> </ul> </li> <li>●着眼点(6)について <ul style="list-style-type: none"> <li>文法・言葉・漢字の学習の導入に親しみやすいイラストが用いられていて、関心をもって学習に取り組むことができるよう工夫されている。〔例〕1年(P38)</li> </ul> </li> <li>●着眼点(7)について <ul style="list-style-type: none"> <li>他教科等との関連を図ることができる教材が取り上げられている。〔例〕1年(P62~66)</li> </ul> </li> </ul>

## 2 使用上の便宜

項目 発行者の 番号・略称		総 ペー ジ	(1) 内容別配当の分量							(2) 教材・資料等の分量					
			思考力、判断力、表現力等			知識 及び 技能	複 合	資 料	そ の 他	図 表 ・ グ ラ フ の 数	紹 介 さ れ て い る 本 の 冊 数	古 典 の 作 品 数	近 代 文 学 ・ 詩 の 作 品 数	デ ジ タ ル コ ン テ ン ツ の 数	三 重 県 に 関 わ る 記 述 等
			話 す こ と ・ 聞 く こ と	書 く こ と	読 む こ と										
2 東書	1年	342	17	25	119	67	20	64	30	8	123	14	6	23	○
	2年	346	16	28	131	59	16	66	30	14	116	13	4	18	○
	3年	354	16	22	144	60	6	79	27	7	111	26	6	16	○
15 三省堂	1年	358	9	25	160	43	14	76	31	5	103	7	2	6	○
	2年	358	13	23	174	37	6	77	28	19	106	13	2	5	—
	3年	342	11	15	166	32	6	80	32	8	108	21	7	4	○
17 教出	1年	354	11	13	135	50	53	59	33	13	105	11	5	57	○
	2年	350	13	16	141	52	32	55	41	11	106	12	5	68	○
	3年	352	17	12	149	47	33	55	39	7	102	20	7	69	○
38 光村	1年	340	13	25	95	63	46	71	27	16	103	7	6	18	—
	2年	336	13	18	96	72	41	72	24	19	101	14	2	14	○
	3年	324	13	12	99	59	24	91	26	7	114	22	7	17	○

### (3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等

2 東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書のサイズはB5判で、本文用紙が約4.5%軽量化されている。</li> <li>カラーユニバーサルデザインの観点から、配色とデザインについて配慮されている。</li> <li>小学校で学習していない漢字には、教材ごとの初出箇所ルビがつけられている。</li> <li>上下段の区切りや順番を明確にし、上段には学習手順、下段には具体例を掲載している。</li> <li>「読むこと」の教材では、行数を数えやすいよう、各行の下に数字と点がつけられている。</li> </ul>
15 三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書のサイズはB5判で、ページの開きがよい製本方式が用いられている。</li> <li>カラーユニバーサルデザインの観点から、配色とデザインについて配慮されている。</li> <li>古文の現代語訳は、色覚の特性による見え方の差が少ない青色が使用されている。</li> <li>上下段で情報を区別し、上段には学習の手順、下段には参考となる情報が示されている。</li> <li>見開きで完結するようレイアウトが工夫されている。</li> </ul>
17 教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書のサイズはB5判で、裏写りのない再生紙が使用されている。</li> <li>カラーユニバーサルデザインに配慮されていて、イラストや図版は形のうえでも区別しやすいよう工夫されている。</li> <li>古文の現代語訳は、見やすいよう、原文の下にまとめて四角囲みで示されている。</li> <li>小学校で学習していない漢字には、教材ごとの初出箇所にルビがつけられている。</li> <li>「読むこと」の教材では、行数を数えやすいよう、各行の下に数字と点がつけられている。</li> </ul>
38 光村	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書のサイズはB5判で、堅牢な用紙が使われている。</li> <li>カラーユニバーサルデザインに配慮されていて、色に頼ることなく識別できるよう工夫されている。</li> <li>原文の横に書かれている古文の現代語訳は色覚の特性による見え方の差が少ない青色を使用している。</li> <li>上段には学習の流れ、下段には学習のポイントが示されている。</li> <li>見開きで活動の全容が見えるようにレイアウトが工夫されている。</li> </ul>

3 その他

語彙指導、読書指導の充実に向けた工夫	
2 東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」の教材の末尾の「広がる言葉」で、文章中の表現と関連させるなどして、語感を磨き語彙を豊かにすることができるよう工夫されている。</li> <li>・著名人が本を推薦したりするなど、さまざまな読書案内が用意されている。</li> </ul>
15 三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の言葉をきっかけに多様な語句を取り上げ、学習活動に即した表現例が多数提示されている。</li> <li>・読書への誘いとして、作家自身の読書体験を語ってもらい、読書の意義や効用についての理解を深められるよう工夫されている。</li> </ul>
17 教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「解説編」に語彙に関わる学習内容の詳しい内容が掲載されている。</li> <li>・日本の三大文豪の近代小説を読む学習と、それぞれの作者の生涯を紹介した資料とを組み合わせた教材が各学年1系列設けられている。</li> </ul>
38 光村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の豊かさや美しさにふれる場として、中扉に「時を表す言葉」等が紹介され、後見返しで一覧にされている。</li> <li>・作品の一部を紹介して続きを読むように促したり、自分に合った本の探し方を提案したりしている。</li> </ul>